

# 国労

# 蘇我運輸区分会ニュース

# 第16回分会大会①

12月20日（月）13時～ 蘇我コミュニ講習室

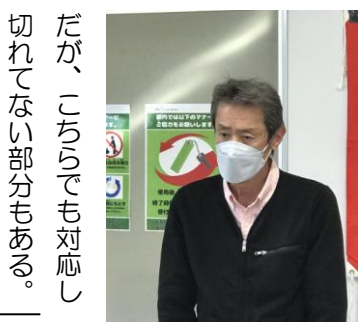
## 議長選出



「皆さんの活発な議論で、この1年を締めくくってほしい」という醍醐副会長の開会のあいさつのおと、議長には斉藤一夫さん（59歳）が選出され、滞りなく議事が進行していきました。

## 分会長あいさつ

今年もコロナ禍に翻弄された1年であった。コロナによる赤字を利用して、会社施策が矢継ぎ早に出されている現状



だが、こちらでも対応し切れてない部分もある。

ここ2～3年、若い人たちの顔も名前も分からない。この時勢で個人的な関わりも制限されているが、溝が出来たままではいけないと思う。残された年数で、若い人たちとコミュニケーションを取りながら、労働者意識や、組合の重要性なども訴えていく。

## 来賓あいさつ

地本より、石橋特別執行委員、北嶋書記長の両名と、元当分会組合員の滝口さん（現メディア）

も参加され、あいさつをいただきました。

## 石橋康裕さん

地域公共交通対策の中で、JRの現状について地域住民と共に話し合い、取り組んできた。

会社は2027年の施策をコロナ禍を悪用し、前倒して実行している。今のままで本当に良いのか。今の現状を4系統職場の代表が集まり、議論するパネルディスカッションを2月6日に計画している。組織人員の減少、集まりやすさを考えて、分会再編として地域ごとの分会を作っていくかざるをえないと思っている。

## 組織拡大も一

長一短に進めるわけではないが労働組合の必要性を訴えながら克服していきたい。退職者組合への加入もお願いしたい。

地本に新たに20代、40代の執行委員を迎えた。この2人にしっかり運動を引き継いでいきたい。

## 北嶋利則さん

会社はコロナ禍の赤字を利用して、とんでもないスピードで様々な施策を進めている。蘇我駅改札窓口の閉鎖は「何をやってるんだろう」という感じ。見守り活動は誰が行なうのか、矛盾している。会社は利用者に対し「乗せてやってる」と



という態度。現場からどんだん声を出していかないと、とんでもないことになる。働きづらい、働き続けられない実態となっている。どうやって若い人たちに組合の大切さを伝えていったらいいのか考えたい。機関紙は「紙の弾丸」とかつては言われていた。全ての分会でそういった活動が出来るようにしていきたい。

## 職場に残そう、労働運動！